

五  
九

玉寸  
五

四



多福寸大行卷第四

目錄

上秋為入道廿強盜事  
引銀的种罰邪种事  
火車之說并摘取元骨



多福寸大行

卷四

四



といふ事と云うて、松は男勝明く見るといふわき、四木山より  
つゆゆく見ると右て。さしなく松の端のていつくともぬく  
葱菜が蔵へ大勢に取巻屋までいひつゝと思ひあはれ。  
あつたひもとも葱らしく。是と計は落するをばあひもよう  
ぬらう直は先とゆだねせん。これ松の大木れをさうするん  
どづのわり様は身とかう息とさめておやりかゝて敷更を  
せり。夢とて尋求むに行方なり。大やうき男どうい  
ふなりとめくもて終りき骨を折りの恥きて示す。怪えり  
哉。こころい申へる。一紀さんま。あつたくよくせよ。さし  
して又鼻が大はくわきとさるわぶがらと焼上りさわる  
日中ね。葱がかり居る松の本と馬甲になつてとめ  
つたりさるあつた。大やうき男とさるさる白く尋常に常衣

多内寸大徳  
卷四  
三



多内寸大徳  
卷四  
三















すゝ常也内見くくゆとどくゆとぬ帝君御あわ  
又ゆふれふに所くありき之にその時又ん帝君入す  
ゆしとて別きて髪にじくるよりて一町中あやして  
後をとりもわし雲霧をらてく残りも風ゆきを  
送ふも夏を母もと結ふにねと儀あつてみらりかく  
み程り光陰もやとく時々の日と成るるに別る  
もあてり所よりぬ通事とあり車忽然とたり  
ぬ女姓屋をかきとて遠くをとりて車も伴ひ  
おねと一夜をかきひ君とすくせれきとありて帝  
のゆきを蒙りたりとに二ふあひぬは後かくゆ  
きゆり中ありて原家も微ぬの呪はあり豊権のま  
經と名づくをゆき信受まわし神仙のゆきをて



一切の形相を捨てて山に來申に當ててより浮屠なり。それ  
古仙乃其屈して此洞に入て世間を修し練りゆく人。内  
徒佛智に叶ひぬは通力自在の例をゆゑ急き彼地り  
依て住するのみ也。一念には入て夜も眠ぬとはあ  
らざるわくわく忽ちして消るせぬ良遠妙なる教の中  
でこれに何れよと云ふ人もあるやうな夢あつたと聞て書  
呪を修し檀香を焚く一鉢のりにつめて祇待りたる  
通ならん洞中のみまじき若と野一つ戸下下若とけつと云  
をまじくすむめこの苦を衣服ぐ鳥獸草木を供へ二人を  
山に上りて随從侍仕をする者。智所融性として病を汁  
飲乃僧ありたり。立山隱士として現後くみまじく道と失ひ  
なりとも。此洞はまじりる鬚乃僧が黙然としてあり。三





○十自



外女の門前へ入つて来て受さめぬと思ひはるがごとく感  
 懐をかく礼拝喜能尼に信託し有り御甲と云ふ末  
 社のまゝのやう申す所より戸をけき入りあむ、そゞろ社  
 は手幣一一人家あり室人をあの女ありし時ある  
 まを添えて室人あらねば凡の森此化相習されたり也  
 悦び多し脚人もいづかゝひて敬慕するなりにはまり  
 刀只に遠くの立舞両も満足せり〜わくがほじ  
 と毛紗の出熊のと傳へきて狒々と二人黙然と坐  
 き居るハモ本柄かけ石を入―荒果々貴砂  
 神威を感じると望遠鏡教志を取り取りの間違も修  
 り止み社内は居を止め祀典奉札の形式無し。  
 別當成て社長を掌事を命ぜられ後おぐりとしの終

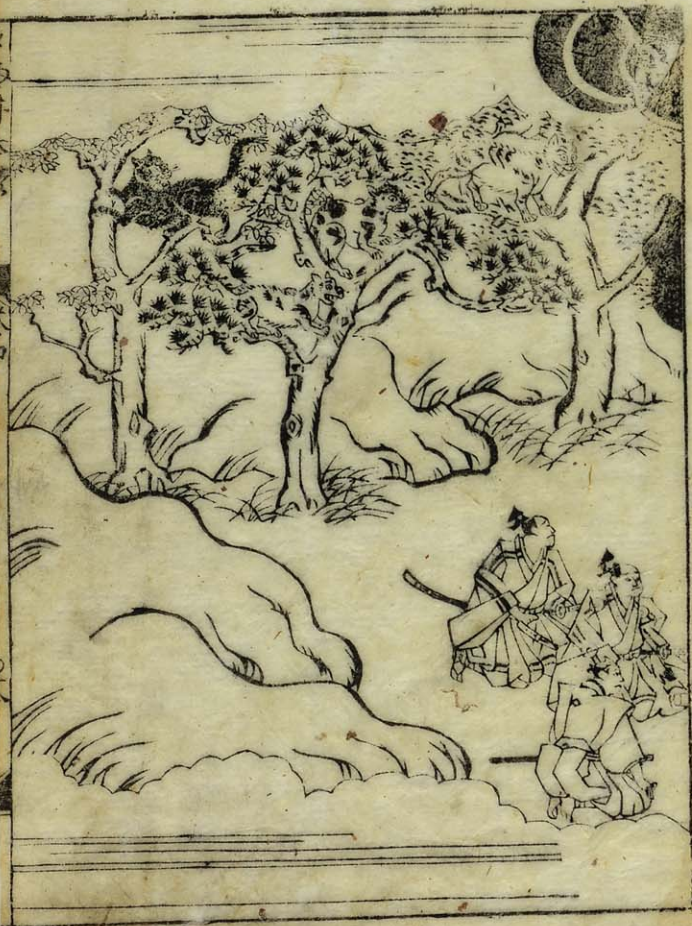
火車の轡

法名東國方へ飛来して骸をうつらひ五月にきて本  
 校よりけ或る首とぬきども其をとりき又い屍と虚  
 宣はしむじて失ふ事もありとて火車とみせ  
 法にありしとてとて冥土に詣りて國より  
 も歸りありし事ありとて佛はあまなく度々  
 人を見佛にたりて法を説く佛神をまつ  
 位心を定めて専ら直をえりて心をはたし  
 火車に妖怪もあはれ成る事ありとて  
 無の事あり地獄鬼畜もあはれありとて  
 法生ありて而して法を地獄も皆同ありとて

云と皆一乃迷悟なり所とはこのいひは換えて  
 神といへ大半ありき位なるがれ家より佛神なりと感  
 を契業よりとめて世法と彩い多しものも子あれ唯正妙  
 といふとまゝにたはくしも出来たるもほしくくわを云と  
 人死しても善果いなり。惡業と多く高住りの生れ  
 く下流より生れやととみより況や佛より生れむ  
 をや下儀より生れ人の中に多かる心性を失かりて  
 畜生鳥形は生れん中なり。うすや亦無淺欲薄業を  
 して世に悪くなく心性はよき教よやく苦患あるれ  
 はものつう佛心よりし修で彩いりしとき佛果善  
 提なりある人なりうすき人も立常は眞よりむ  
 西遊正路ありむがく罪業のし心は罪として情を記い



[illegible]



ぬき二辨れ者どもするやとをわきまけり。とてく櫛をかき  
けり。とて物也。はかたに集れど。時天候はかき曇り。黒  
雲一ひら。此棺のふははひのてうすまにたり。せえがも動  
あり。此雲をひきす。人ひき導へり。をさる。れ黒雲とさ  
つとやう。うり。呪文を唱へ。大音と都て云。高き業。根  
心を高き。真霊より。佛性をさる。い。護は。野  
せ。心へて。せ。良。描め。と。叱。し。入。と。群。居。と。う。故。急  
雲。き。入。元。時。く。り。の。時。と。を。成。と。う。う。後。の。時。は  
け。ず。葬。終。り。終。式。を。ぬ。け。ひ。の。い。ぬ。時。し。後。人。と  
い。ふ。り。う。き。あ。は。の。の。い。な。う。後。つ。り。み。息。も。罪。業。と。れ。と  
る。ら。し。て。い。や。く。そ。の。人。の。い。ふ。か。り。抱。し。て。ま。を。里。れ。村。に  
ま。て。櫛。を。わ。け。り。て。遠。く。後。き。る。と。う。世。後。永。く。後。き。る。

[illegible]

